

## 第 36 回 品質保証分科会 議事録

1.日時 平成 26 年 3 月 24 日(月)13 時 30 分～16 時 50 分

2.場所 日本電気協会 4 階 C, D 会議室

3.出席者(順不同)

出席委員:棟近分科会長(早稲田大学), 渡邊幹事(JANSI), 松本(三菱重工業), 御手洗(三菱電機), 三村(日立GE), 本田(中国電力), 菅野(電源開発), 櫻井(関西電力), 櫻庭(東北電力), 重光(九州電力), 島津(北海道電力), 塚本(北陸電力), 原田(東京電力), 古谷(日本原電), 小野(三菱原子燃料), 菊池(原子燃料工業), 福本(グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン), 田子(日本原子力研究開発機構), 飯塚(東京大学), 佐藤(東京海洋大学), 関谷(発電設備技術検査協会), 森(JANSI), 佐藤(東芝)

(計 23 名)

代理委員:岡部(IHI・栗林代理), 鈴木(中部電力・小川代理), 丸岡(日本製鋼所・吉田代理)  
中村(日本原燃・山本代理)

(計 4 名)

欠席委員:西岡(四国電力), 高橋(富士電機), 林田(原子力規制庁・常時参加者), 渡邊(原子力規制庁・常時参加者)

(計 4 名)

オブザーバー:谷口(大成建設), 長浜(清水建設), 藪内(鹿島建設), 吉田(熊本大学)  
菅谷(日本NUS), 須田(テクノファ), 米岡(LRQA), 宮口(IHI), 波木井(東電)

(計 9 名)

説明者:渡邊幹事(JANSI), 鈴木(中部電力・小川代理), 宮口(IHI;一般要求事項タスクメンバー)

(計 3 名)

傍聴者:近藤(リサイクル燃料貯蔵)

(計 1 名)

事務局:荒川, 鈴木, 富澤(日本電気協会)

(計 3 名)

### 4.配付資料

資料 36-1	原子力規格委員会 品質保証分科会 委員名簿
資料 36-2	第 35 回品質保証分科会 議事録 (案)
資料 36-3	第 49 回原子力規格委員会 議事録 (案)
資料 36-4	JEAG4121 改定検討WG 検討状況
資料 36-5	JEAG4121 改定案 (第 2 部 4 - 6 章チーム, 第 3 部 4 - 6 章チーム)
資料 36-6	JEAG4121 改定案 (第 2 部 7 章チーム, 第 3 部 7 章チーム)
資料 36-7	JEAG4121 改定案 (第 2 部 8 章チーム, 第 3 部 8 章チーム)
資料 36-8	JEAC4111-2013 の 9 章の推奨事項と解説に対する JEAG4121 第 3 部の案
資料 36-9	第二部目次案 (課題の整理に代えて)
資料 36-10	ISO TC85 WG4 「PWI 19443 "NUCLEAR SAFETY AND QUALIITY MANAGEMENT SYSTEM - REQUIREMENTS"」について
資料 36-11	NUCLEAR SAFETY AND QUALIITY MANAGEMENT SYSTEM - REQUIREMENTS
資料 36-12	JSME 設計・建設規格事例規格 NC-CC-007 「一般要求事項」の概要
資料 36-13	平成 25 年度 JEAC4111 講習会の実施結果について (案) (報告)
資料 36-14	原子力規格委員会 品質保証分科会 平成 26 年度活動計画 (案)
資料 36-15	平成 26 年度 各分野の規格策定活動 (案)
資料 36-16	平成 26 年度 JEAC4111 講習会等実施スケジュール (案)
参考資料-1	分科会委員構成の中立性, 透明性について (新委員名簿含む)
参考資料-2	原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化
参考資料-3	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
参考資料-4	第 38 回 品質保証検討会議事録 (案)

## 5.議事

### (1)分科会長の選任

棟近分科会長が選任されて2年が経過するため、分科会規約第6条5項に基づき、選任が必要である旨事務局より説明した。

委員より棟近委員が推薦され、単記無記名投票を行った結果、過半数の得票により棟近委員が分科会長に選任された。

また、棟近分科会長より渡邊委員が幹事に指名されるとともに、幹事代行として松本委員が指名された。

### (2)代理委員の承認、会議定足数の確認

棟近分科会長により、代理委員4名が承認され、代理委員を含めて出席委員が27名となり、全委員31名のうち、3分の2以上(20名以上)という会議定足数を満たしていることが確認された。

### (3)新規分科会委員の紹介

参考資料-1に基づき、民間規格策定に係る分科会委員構成の中立性、透明性確保のため、委員構成の見直しを進めてきており、7名の新委員を加えて来年度より活動を進める旨事務局より説明するとともに、新たな7名の委員を紹介した。

また、各委員への委員委嘱状は、3月31日開催の原子力規格委員会後に事務局より発送することを説明した。

- ①谷口氏(大成建設)
- ②長浜氏(清水建設)
- ③藪内氏(鹿島建設)
- ④吉田氏(熊本大学)
- ⑤菅谷氏(日本NUS)
- ⑥須田氏(テクノファ)
- ⑦米岡氏(LRQA)

### (4) 品質保証分科会及び検討会の委員の交代

事務局より、分科会委員及び検討会委員の交代者が無いことを説明した。

### (5) 前回議事録の確認

事務局より、資料36-2に基づき、第35回品質保証分科会議事録(案)が紹介され、正式議事録とすることが確認された。

### (6)第49回原子力規格委員会議事録(案)の紹介

事務局より、資料36-3に基づき、第49回原子力規格委員会 議事録(案)の当分科会に関係する記述について紹介した。また、渡邊幹事より、5月16日(金)に第1回原子力規格委員会シンポジウムが東大武田先端知ビルで開催される旨説明された。

### (7) JEAG4121-201X 原子力安全のためのマネジメントシステム規程(JEAC4111-2013)の適用指針)の改定案の策定状況について

分科会幹事及び代理出席者より、資料36-4～8に基づき、改定案の策定状況を説明された。

審議の結果、今後のJEAG4121-201Xの改定案の策定にあたり、法的位置付けの記載について十分検討し改定案を策定する。

なお、本日の説明を踏まえ、改定案についてコメント等がある場合は別途連絡することとした。

(主なコメント)

- ・JEAC4111-2009については規制庁でエンドース(技術是認)されていた。規制庁に確認し改定案を作成したほうが良いのではないかと。
- この点について非常に重要であると認識しているが、規制庁側の状況等が全く不明であり、その時点での状況を踏まえてJEAG4121-201Xの改定案を作成するしかないと考えている。
- ・JEAG4121の改定案の中にJEAC4111の法的位置付けを記載することが問題ではないかと。
- 今後検討することとする。

(8) ISO TC85 WG4 「PWI 19443 “NUCLEAR SAFETY AND QUALITY MANAGEMENT SYSTEM- REQUIREMENTS”」  
について

資料 36-10 及び 36-11 に基づき、分科会幹事より品質保証分科会における対応状況について報告した。

・国内TC85委員会の中で通過したのか。

→現在WGドラフトの次がコミティードラフトであり、最後はファイナルドラフトという各段階を経ることとなる。

・国際的に動いているということで良いか。

→そのとおり

・参加加盟国が少ないとのことである。

→日本はWGメンバーになったのか。

・WGとして登録した。

・規格の中身を検討すると同時にこの規格をどう使うかはどこで議論されるのか。

→現時点では分からない。

・この規格は国の制度に係るため、キチンと報告するなり相談しておき必要があるのではないか。

→委員の組織の関係者に中間報告を確認したところ、基本的に認証等は17011にISOのカスコという組織体で審議されると聞いており、内容については詳細に確認していく必要があると考えている。

・17011規格とはどういうものか。

→世界的に新たに認定機関の資格基準を作ろうとしているものである。この17011規格を使って認証機関を認証していくことで考えている。

→17011規格は認定基準であり、これを使ってJABのような機関を認定するための規格であり、セクター規格として新しく認定の機関を認証するため、認定機関ではない部分で流用して策定する可能性があるのではないかと思われる。

・ということは、世界的な規格が策定されることで各国が規格を持っていて、政府の規制とバッティングするか協力するかという可能性が考えられる。その時に政府としては必ず参画する必要がある。

→ということは日本原子力学会で5月にWG4が設立され、WG4の中に政府機関の人が入っていた方がいということか。

→様々な認証目的が考えられるが、初めにスコープをはっきりさせる必要があると考える。規格を策定してから何に使うか意識しながら使う必要がある。スコープの議論を何時の時点で行うかをはっきりさせる必要があるということを第1回の会議で提起し、何らかの対応をすることが良いと思う。

・新たに組織が発足し、6月初旬という早い時期であるが、もう少し明確化して取り組んでいきたいと考えている。

→次回のタスクは5月18日であり、その時点で頂いたご意見をどうするか検討することとしたい。

(9) JSME 設計・建設規格事例規格 NC-CC-007 「一般要求事項」の概要

代理出席委員より、機械学会の設計建設規格事例規格の一般要求事項について意見交換したいとの申し入れに基づき、本日資料 36-12 を用意した旨説明があった。

その後、資料 36-12 に基づき、機械学会の一般要求事項タスクメンバー（幹事）からこれまでの経緯等について説明があった。本件は福島事故以前から東大法制検等で検討されてきているものであり、工認や溶検の民間認証を実現するための具体的フレームワークを検討するものであるが、電事連から機械学会に依頼があり検討しているものとの説明があった。

・今日の意見交換はどのような観点から意見交換したいか確認したい。

・本日の説明は非常に難しく、また、米国との規制との関係が日本とは異なることもあり、規制と関わりが明確にならないと何をすれば良いのか不明である。

→これまで学協会規格類協議会という意見交換の中で規格について情報交換してきており、この場で品質保証分科会と意見交換を勧められた。

・本日の説明資料の中であったISO等への対応について、日本全体としても、発展途上にある国も取り込めるようにすべきということなのか。

→国の制度が変わらないとできないというのはその通りと思われる。最終的には国の制度に反映して頂く必要があると考えており、このシステムを国の検査の一部として組み込んでもらい、工認計算書、溶接検査等については、国がダイレクトに関与することがないようにして頂くというのが前提である。いきなりそのようにはできないため、まずプロトタイプとして、民間でうまく回してみてもうまく機能することを見せる必要がある。

結果的に、民間側、規制側双方の合理的な仕組みを作ることができれば良いと考えている。

•本件の認証、評価の対象は、組織であったり設計内容であったり、スキームであったりと様々のようであるが、認証のプログラム、として使っていこうとしているのか

また、人の技量認定までかかっているが、基準からスキルまで全体が記載されているようであるが、この構造はASMEと基本的に同じなのか。

→全部が入っているかという厳密な意味では書いていない。組織を認証する全体の仕組みということを書いていない。

基本的な構成はDCBと同じである。

•現実的に使おうとすると、ある特定の部分(該当する基準等)を用いて、認証のスキームが出来上がるということになるのか。

→本件は、JSMEの設計建設規格をベースにしており、耐圧機器、周辺装置の構造設計の妥当性をクレジット使用とするものである。

そういう意味ではISOとは若干異なる。

•一般という言葉の引用の意味は。

→深い意味は無く、ゼネラルリクワイアメントを一般要求事項と略しただけある。

•このような制度を作ることは意味あることと考えられるが、社会システムパッケージとして社会制度設計を考えていくということでは基準として検討していくことは分かったが、規制、様々な制度、法律との関係、整合性等があり、今後検討していく必要がある。

#### (10) 平成25年度 JEAC4111 講習会の実施結果について (案) (報告)

幹事より、資料 36-13 に基づき、平成25年度 JEAC4111 講習会の実施結果について (案) について報告があった。

(特にコメントなし)

#### (11) 原子力規格委員会 品質保証分科会 平成26年度活動計画 (案) 等

幹事より、資料 36-14~16 に基づき、平成26年度の品質保証分科会の活動計画(案)の説明があり、今年度の計画では、JEAG4121について、6月に中間報告、9月に原子力規格委員会に上程することを目標にしている旨説明した。

また、今年度の講習会等のスケジュール(案)についても説明された。

なお、各分野の規格策定活動(案)については、1P(4~5行;工事計画認可申請における認可基準を新たに定めることを検討している)について、一部修正し原子力規格委員会に上程することで委員の4/5以上の承認が得られた。

#### 6. その他

事務局及び委員より以下の説明がなされた。

##### (1) 原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化

委員より参考資料-2 に基づき、福島事項以降、より一層の原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化が求められている旨の説明がなされた。

##### (2) 次回の分科会のスケジュール

次回の分科会開催にあたっては、別途日程調整の上、別途委員に連絡することになった。

以上